

第三セシウム吸着装置の設置状況について

2019.3.28



東京電力ホールディングス株式会社

第三セシウム吸着装置（SARRY II）の設置について



■ 滞留水処理および建屋滞留水浄化の加速化により、建屋貯留リスクの早期低減が実現可能

【処理容量の増加】

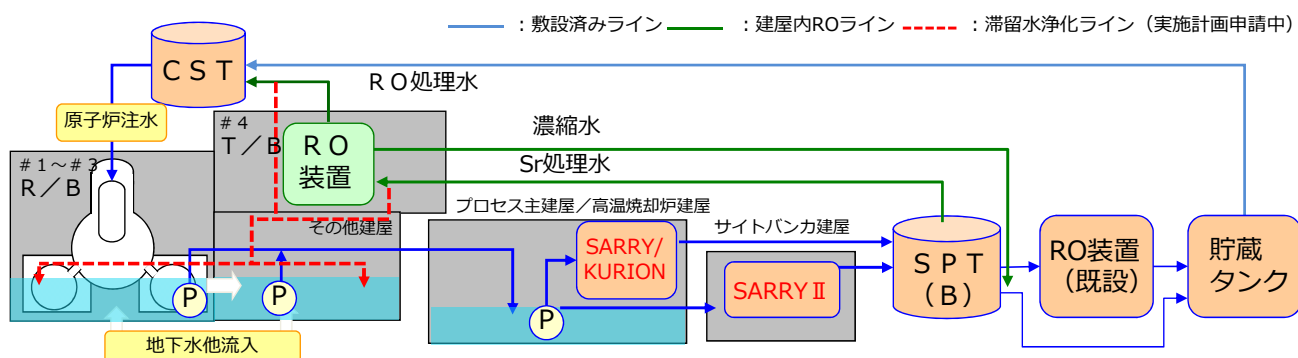
- 地下水他流入量低下に伴うSARRYの余剰能力を建屋滞留水浄化に充当することを計画していたが、SARRY IIの運用開始により浄化容量が増加（+600m³/日：SARRY II 定格処理容量）
- 大雨時などにおいて、従前より建屋滞留水の移送量を増加可能

【稼働率の向上】

- メンテナンス時、万一の設備故障時または定期的実施している吸着塔交換作業等による処理装置の停止時においても、他の処理装置で滞留水処理が可能。

【運用幅の拡大】

- 一方の処理装置は滞留水の処理、もう一方の処理装置は滞留水浄化といったような運用の幅が広がるため、今後の建屋水位低下作業において、状況に応じた柔軟な対応が可能。



- SARRY II の性能検査のうち運転性能検査（事前の社内確認）の際、使用前検査の確認項目である『Cs-137 の放射性物質濃度の低減に関する判定基準（除去性能）』を満足していないことを確認した。
- 使用前検査を延期し原因調査をした結果、主要な原因として吸着材の初期特性によるCsを吸着した吸着材微粉が出口へ流出することでCs濃度が上昇することが判明。
- 対策として、工場で吸着材を吸着塔容器へ充填する前に吸着材を洗浄することで極力除去を実施すること及び、新規吸着塔装填後の運転時に吸着塔差圧が工場出荷時と比べて高い場合には逆洗を実施する。
- これまでの装置への通水により、吸着材由来の微粉については十分に除去されており、除去性能も向上したことから、2018年12月4日に使用前検査を完了し、使用前検査終了証を2019年1月28日に受領した。
- 現在、装置の更なる性能向上を目的として、新規吸着材の確認運転・評価を実施中。

年月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
主要工程	▽ 使用前検査完了【12/4】					
	新規吸着材手配					
	新規吸着材の導入試験・検証					
			▽ 使用前検査終了証受領・確認運転開始【1/28】			
			新規吸着材確認運転・評価			

